



第15回ボウリング大会



2月22日(土)、アーバンボウル豊岡で41人参加で開催されました。優勝目指して2ゲームを行いました。合計得点プラス年齢、性別でハンディが与えられ(前回優勝者にはハンディなし)、小学生から大人まで楽しい時間を過ごす事が出来ました。

上位入賞者は

優勝 池田 壘音さん 345点

準優勝 本庄 揚子さん 344点 3位 高木 将人さん 333点

以上のような結果となりました。

おめでとうございます。



『戦略的移住推進モデル事業計画』

できあがる

宿南地区自治協議会では移住コーディネーター森本知子さんの協力を得て、昨年7月から「戦略的移住推進モデル事業」に取り組んで来ました。

2月には企画書が完成し、各戸に配付がなされました。すでに、いくつかのプロジェクトがスタートしています。

地域みんなの問題として取り組んでいきましょう。





ミニ発表会



2月6日（木）、ふれあい倶楽部ホールで宿南こども園のミニ発表会が行なわれました。当日は初雪が降り足元の悪い中ではありましたが多くの地域の人達にも見ていただきました。

外は寒かったですですがホールの中は子供達の可愛い演技で温かったです。



2月6日のふれあい倶楽部



川東区ミニディ



川東区恒例行事である65歳以上対象のミニディがふれあい倶楽部ホールで41人（福祉委員含）参加で2月23日（日）に開催されました。手作り紙芝居（読み聞かせ）の「掃部狼婦物語」や楽しいゲーム、食事で親睦を図りました。



お知らせ

3月18日（水）八鹿青溪中学校卒業証書授与式

3月18日（水）宿南こども園卒園式

3月19日（木）宿南小学校卒業証書授与式

4月 8日（水）小・中学校入学式



草庵先生紹介

日記 18



実家での草庵の結婚式

宮崎和夫さん作

池田草庵は35歳の時に結婚した。青谿書院を開いた翌年である。このことには若い塾生たちが気をもんで成立させたようだ。それは、草庵の甥であり、門人でもあった池田盛之助が亡くなった時、彼を送る祭文を読んだつぎの草庵の言葉で分かる。「（盛之助は）私のために妻を選んでくれた。また、私のために青谿書院を建てるためにがんばってくれた」。草庵は感謝を述べているのだ。

結婚式当日の日記。「検読 4人。大石牧と話をする。すぐに片山（実家）に行く。この日、婚娶。夜遅く書院に帰る」（嘉永元〈1848〉年8月11日）

婚娶とは、嫁をめとること。新婦は、八鹿村の医師國屋松軒の妹の久（久子の表記もある）である。久はこの時20歳前後であったと思われる。松軒は草庵の立誠舎時代からの門人で、盛之助らとともに草庵を支え続けていた人だ。日記によると、その日は新婦を草庵の実家にのこしたまま、自分だけ書院に帰っている。

そして、その後もしばらく草庵の実家に留まったままである。その間、草庵は書院で塾生に講義をしたり、新婦のいる実家に行って泊まったり、体調が悪くなって寝込んだりもしている。

そして、結婚式から4日目。「指導3人に1人ずつ。結髪。木築五郎右衛門が来て、しばらく対話。一緒に池口家に行き食事。しばらくして、書院に帰る。兄嫁が新婦を連れて書院に来る」（同年8月15日）

ようやく新婦が青谿書院にやってきたのだ。そして、その翌日。「検読5人。授読1人。講義は『人譜』。今日は、お茶にしたり、だんらんしたりした。夜、兄がきて、しばらくして帰った。身の回りの雑事も楽しくできる。読書はわずか2、3ページ。祝いの客も来る。盛之助は来て居る」（同8月16日）

塾生たちがいるというもの、今まで1人で生きてきた草庵に生活を共にしていっしょに歩む人ができたのだ。

（提供 朝日新聞社）